

平成 26 年度
第 2 号

『耕人』

『耕人塾』
塾長木村民男
平成 26 年 6 月 21 日 (土)

「われ太平洋の橋とならん」(新渡戸稲造)

旧 5 千円札に新渡戸稲造の肖像と「太平洋の橋」をイメージした地球図が描かれていたのを知っていると思います。新渡戸稲造は 1862 年に岩手県盛岡市に生まれました。稲造が 5 歳の時に父が亡くなり、9 歳の時に叔父を頼って上京し、11 歳で東京外国語学校に入学するなど波瀾万丈の少年期を過ごしました。その後、15 歳で札幌農学校に入学。19 歳で東京大学入学時の問答で「われ太平洋の橋とならん」と答えています。22 歳でアメリカ・ドイツに留学し、29 歳のときアメリカ人メリー・エルキントンと結婚して帰国、札幌農学校教授として勤務します。

37 歳の時、ベルギーの法学者ラブレーから「宗教教育がない日本で、どうして子孫に道徳教育をするのか」と問われ、即答できませんでした。その後、自分の考え方や善悪の観念を育んできたものは武士道であったことに思いあたりました。そして、ラブレーと妻に日本人の心を知ってもらうために、英文で「武士道」を著したのです。キリスト教徒である新渡戸が、封建制度を土壌として生まれた「武士道」を内外の事例と対比させながら説明し、日本人の心を掘り下げています。1900 年(明治 33 年)「武士道」がアメリカで刊行されると、アメリカ大統領セオドア・ルーズベルトは一読して感動し、数十冊を購入して友人や親戚に贈ったといわれています。その後、「武士道」は一大ブームとなり、ドイツ語、フランス語、ポーランド語、ロシア語などに翻訳され、日本の精神性や人々の姿を世界中に伝える役目を果たしました。

1919 年(大正 8 年)第一次世界大戦が終結し、史上初の国際平和機構である国際連盟が発足して初代事務総長にイギリス人のエリック・ドラモンドが就任しました。日本も常任理事国として事務次長を出すことになり、英語とドイツ語に堪能であり、外国人とも対等につきあうことができ、「武士道」の著者としても世界的に名を知られている新渡戸が推薦されたのです。日本にとって初めての国際舞台であり、日本の「顔」として国際舞台に送り込む打って付けの人でした。連盟における新渡戸の輝かしい業績の一つは、知的協力委員会の運営に尽力したことです。この委員会は、真の平和のためには国際的な文化交流が不可欠という新渡戸の理念によって設置され、構成メンバーはドイツの物理学者アルベルト・アインシュタイン、ポーランドの化学者マリー・キュリーなど世界最高の知性の集まりでした。また、新渡戸は 7 年の在職中、事務総長に代わってヨーロッパ各国で演説し、聴衆に深い感動を与えました。

新渡戸は、「われ太平洋の橋とならん」という若いときの志を一生貫いた人でした。

「地元の心をつかむ～競技場、試合後ごみ拾い～」(6 月 17 日の河北新報)

「サッカーワールドカップブラジル大会で日本が初戦で敗北したが、日本人サポーターたちは一斉に会場のごみ拾いをしている様子を、地元紙は『敗北したが、日本の応援団のカリスマ性はブラジル人の心をつかんだ』と好意的に伝えた。」という記事が掲載され、「試合後に競技場でごみを拾う日本人サポーターの写真がインターネットで出回っており、日本人のマナーをたたえる声がブラジルで広がっている。」とも報じていました。人に感動を与え、人の心を動かすのは足下の小さなことを実行することなのかも知れません。皆さんが目指している「世界に誇れる石巻をつくろう」というテーマへのヒントが隠されているように思います。